

## 第 1 号議案

### 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について (地域内フィーダー系統確保維持計画)

地域公共交通確保維持改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、自ら事業の実施状況の確認・評価を行ったうえで、その結果を補助金の交付を受けようとする会計年度の1月末までに、地方運輸局に報告する必要があります。

このことから、本協議会にて令和4年度事業の評価についてご審議いただくものです。

#### 令和4年度事業（令和3年10月1日～令和4年9月30日）の概要

- ◆事業者名 宇和島市、宇和島自動車株式会社
  
- ◆運行内容 定時定路線型 9 系統  
(大河内線・大良線・筋線・筋線（花組経由）  
・川之内線・音地線・大藤線・増田線  
・本九島線)  
デマンド型 3 系統  
(別当線・大河内線・川平線)
  
- ◆補助対象額 27,065 千円
  
- ◆補助申請額 13,531 千円

◆令和4年度事業実績（集計期間：令和3年10月～令和4年9月）

運行形態	路線名	運行回数				利用者数			
		計画	実績	差引	割合	計画	実績	差引	割合
定時定路線型	大河内線	607.5回	607.5回	0	100.0%	2,000人	680人	△1,320	34.0%
	大良線	1,458回	1,458回	0	100.0%	6,500人	4,199人	△2,301	64.6%
	筋線	972回	972回	0	100.0%	2,300人	1,290人	△1,010	56.1%
	川之内線	922回	927.5回	5.5	100.6%	1,844人	453人	△1,391	24.6%
	音地線	1,165回	1,170回	5	100.4%	2,330人	2,515人	185	107.9%
	大藤線	294回	294回	0	100.0%	1,458人	205人	△836	42.7%
	大藤線	435回	435回	0	100.0%		417人		
	増田線	729回	729回	0	100.0%	1,458人	271人	△1,187	18.6%
デマンド型	別当線	1,300回	973回	△327	74.8%	1,900人	1,228人	△672	64.6%
	大河内線	120回	27回	△93	22.5%	160人	29人	△131	18.1%
	川平線	50回	46回	△4	92%	60人	53人	△7	88.3%
定時定路線型	本九島線	3,223.5回	3,211回	△12.5	99.6%	33,873人	30,204人	△3,669	89.2%

※筋線（花組経由）は筋線に合算。

※大藤線は、令和4年3月1日から運行距離が0.5km短縮されたため、一部分割して記載。

※本九島線のみ事業者が宇和島自動車株式会社であるため、下段に記載。

（新型コロナウイルス感染症の影響について）

令和2年度、3年度に引き続き、令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、ほぼ全路線で乗車計画数を下回る結果となりました。

利用実績等により路線の見直しも随時行っておりますが、今後も地域の皆様方のご意見をいただきながら、見直しの検討や利用促進に努めていきたいと考えております。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名:宇和島市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
宇和島市	(大河内線) 吉田駅～立間小学校～大河内	利用案内の市HP掲載、広報誌で案内・利用状況の回覧、転入者へ公共交通マップ配布による利用促進やGoogleマップへの掲載を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 C 【目標達成率】34.0% (目標:2,000人/年) 【利用者数】680人/年 (対前年比:58.3%)(対前々年比:46.6%) 【収支率】8.5% (対前年比:▲11.3%)(対前々年比:▲15.5%) 新型コロナウイルス感染症の影響が主因であるが、利用者の多くは高齢者であり、よく利用される方が施設入所等で利用がなくなったことにより、利用数が減少し目標値を下回った。	【全体】 ・持続可能な公共交通とするには、地域住民の自主的、積極的な利用が不可欠であるため、今後も利用促進に係る啓発(広報・HP等を活用した情報提供)を行う。 ・令和2年度、3年度に引き続き、令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、ほぼ全路線で令和3年度よりも利用が減少した。  (参考) ・対前年比(R3利用者数) 別当地区 -7% 吉田地区 -25% 三間地区 +3% ※R2年9月再編路線のため昨年度との比較のみ。 ・対前々年比(R2利用者数) 別当地区 -27% 吉田地区 -38% 【吉田地区】 ・吉田公民館前にバス停新設を検討している。 【三間地区】 ・一般利用の定着に向けて、コロナの状況も見極めながら車内の感染症対策にも努め、引き続き回覧等による情報発信を行い、利用促進を図る。  (参考) ・1便あたり利用者は、大藤線が0.5人から0.7人、増田線が0.2人から0.4人に増加。 一方、川之内線は0.5人とR2から変化していない。	
	(大良線) 吉田駅～吉田中学校～大良		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 C 【目標達成率】64.6% (目標:6,500人/年) 【利用者数】4,199人/年 (対前年比:73.4%)(対前々年比:62.2%) 【収支率】10.5% (対前年比:▲7.3%)(対前々年比:▲8.2%) 新型コロナウイルス感染症の影響を主因に、利用者数は目標を下回った。		
	(筋線) 吉田駅～吉田中学校～筋		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 C 【目標達成率】56.1% (目標:2,300人/年) 【利用者数】1,290人/年 (対前年比:90.7%)(対前々年比:72.6%) 【収支率】6.7% (対前年比:▲3.1%)(対前々年比:▲4.9%)		
	(筋線) 吉田駅～鳥首口～筋		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 C 新型コロナウイルス感染症の影響を主因に、利用者数は目標を下回った。		
	(川之内線) 道の駅みま～川之内～道の駅みま	利用案内の市HP掲載、広報誌で案内・利用状況の回覧、転入者へ公共交通マップ配布による利用促進やGoogleマップへの掲載を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 C 【目標達成率】24.6% (目標:1,844人/年) 【利用者数】453人/年 (対前年比:92.3%) 【収支率】4.1% (対前年比:▲0.4%) 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、再編後の利用定着が進まず利用者数は目標を下回った。 ※R2年9月再編路線のため昨年度との比較のみ。		
	(音地線) 三間支所～音地集会所～宮野下駅前		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 A 【目標達成率】107.9% (目標:2,330人/年) 【利用者数】2,515人/年 (対前年比:97.3%) 【収支率】7.7% (対前年比:▲3.3%) 他の路線と比較して小学生の定期通学利用者が多いため、利用者数は目標を上回った。 ※R2年9月再編路線のため昨年度との比較のみ。		
	(大藤線) 道の駅みま～大藤集会所～もみの木前		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 C 【目標達成率】42.7% (目標:1,458人/年) 【利用者数】622人/年 (対前年比:119.4%) 【収支率】4.3% (対前年比:▲1.4%) 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、再編後の利用定着が進まず利用者数は目標を下回った。 ※R2年9月再編路線のため昨年度との比較のみ。		
	(増田線) 道の駅みま～増田集会所～三間支所		A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 C 【目標達成率】18.6% (目標:1,458人/年) 【利用者数】271人/年 (対前年比:188.2%) 【収支率】3.2% (対前年比:+0.7%) 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、再編後の利用定着が進まず利用者数は目標を下回った。 ※R2年9月再編路線のため昨年度との比較のみ。		
	(別当線/デマンド)		利用案内の市HP掲載、広報誌での案内・利用状況の回覧により利用促進を図った。	A		事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 C 【目標達成率】64.6% (目標:1,900人/年) 【利用者数】1,228人/年 (対前年比:93.2%)(対前々年比:73.2%) 【収支率】14.4% (対前年比:▲1.7%)(対前々年比:▲4.6%) 新型コロナウイルス感染症の影響を主因に、利用者数は目標を下回った。
	(大河内線/デマンド)			A		事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 C 【目標達成率】18.1% (目標:160人/年) 【利用者数】29人/年 (対前年比:36.3%)(対前々年比:20.3%) 【収支率】0.3% (対前年比:▲0.5%)(対前々年比:▲1.1%) 新型コロナウイルス感染症の影響が主因であるが、利用者の多くは高齢者であり、よく利用される方が施設入所等で利用がなくなったことにより、利用数が減少し目標値を下回った。
(川平線/デマンド)	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 B 【目標達成率】88.3% (目標:60人/年) 【利用者数】53人/年 (対前年比:132.5%)(対前々年比:108.2%) 【収支率】1.3% (対前年比:±0.0%)(対前々年比:▲0.4%) 新型コロナウイルス感染症の影響を主因に、利用者数は目標を下回った。				
宇和島自動車株式会社	(本九島線) 本九島～きさいや広場	HPへバスの乗り方について掲載。HPではバス運行に関して運転士のマスク着用や検温、車両の消毒等の対策を行っている旨を掲載し、安心して利用できる体制をPRした。また、経路や運賃を調べやすくするため、Googleマップへバス停留所位置を反映させ、利用者への情報提供を行った。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。 B 【目標達成率】89.2% (目標:33,873人/年) 【利用者数】30,204人/年 (対前年比:94.8%)(対前々年比:89.2%) 【収支率】36.4% (対前年比:▲1.6%)(対前々年比:▲5.6%) 新型コロナウイルス感染症の影響を主因に、利用者数は目標を下回った。	持続可能な公共交通とするには、地域住民の自主的、積極的な利用が不可欠であるため、今後も利用促進に係る啓発(広報・HP等を活用した情報提供)を行う。また、利用者の要望に対し、可能な限り時刻改正等要望に応える。	

<p>自己評価基準</p> <p>④事業実施の適切性</p> <p>A評価:事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された(目標達成率90%以上)</p> <p>B評価:事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった(目標達成率70%以上90%未満)</p> <p>C評価:事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった(目標達成率70%未満)</p> <p>※デマンド型の別当線・大河内線については、計画に対し実績が90%未満になっているが、四国運輸局に問合せたところ、運行体制が整っていれば、実際の利用が少なくても「A評価」とするよう指示があった。</p> <p>⑤目標・効果達成状況</p> <p>A評価:事業が計画に位置付けられた目標を達成した(目標達成率90%以上)</p> <p>B評価:事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(目標達成率70%以上90%未満)</p> <p>C評価:事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(目標達成率70%未満)</p>
---

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

協議会名:	宇和島市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
<p>地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)</p>	<p>(地域の概況) 宇和島市は愛媛県西南部に位置する、人口70,165人(令和4年11月末日現在)、面積468.15km<sup>2</sup>のまちである。西は入り江と半島が複雑に交錯した典型的なリアス式海岸が続き、5つの有人島と多くの無人島がある。東は1,000m級の鬼ヶ城連峰が海まで迫り、起伏の多い複雑な地形をしている。市街地や集落は海岸部の平野や内陸部の盆地に点在している。</p> <p>(宇和島市) 市内を運行する鉄道路線は、予讃線と予土線の二つのJR路線で、予讃線は当市から高松市までを、予土線は当市から高知県高岡郡四万十町まで運行されている。路線バスは、宇和島自動車株式会社により運行されており、市民生活に欠くことのできない移動手段として機能している。 当市の場合、宇和島駅が予讃線・予土線終着駅であり、当市以南には鉄道がなく、市役所や公立病院、学校施設などの主要施設が駅から離れて点在しているため、路線バスは生活するうえで極めて重要な役割を果たしているが、近年は人口減少やマイカーの普及による輸送人員の減少で、厳しい経営を余儀なくされており、やむなく廃止・再編された路線もある。 このように地域の公共交通を取り巻く環境が厳しい中、市民生活の利便性を確保し、公共交通の空白地域を解消するため、平成24年4月から「地域内フィーダー系統」としての運行を開始し、令和4年9月末の時点では、定時定路線型8系統、デマンド型3系統を運行している。</p> <p>(本九島線) 九島地区は、周囲約10km、人口750人(令和4年11月末日現在)の離島である。島内に公共交通はなく、本土への交通手段については、1日9往復のフェリーが生活に必要不可欠な交通として機能していたが、平成28年4月に本土と九島を繋ぐ九島大橋が供用開始となり、当該航路(九島～宇和島)は廃止となった。また、平成29年4月からは島内唯一の小学校が廃止され、本土の小学校に統合されている。 このため、地域公共交通確保維持事業により、新たな交通手段として路線バスの運行(きさいや広場～本九島)を行い、地域住民の通院、通学、買い物を中心とした生活に必要な足を確保・維持していく必要がある。</p>

## 宇和島市基礎データ

合併状況:平成17年8月に1市3町が合併  
人口:70,165人(令和4年11月末現在)  
面積:468.15平方キロメートル

## 宇和島市における主な公共交通概要

○鉄道 JR予土線、JR予讃線

○バス

(幹線)

- ・宇和島自動車(株)が運行する民間事業路線  
宇和島～城辺 宇和島～宿毛 宇和島～虹の森公園前  
宇和島～日吉 宇和島～野村 田之浜～宇和島  
船間～宇和島 立間～福浦

(フィーダー系統)

民間事業路線

- バスセンターや宇和島駅前停留所等で幹線につながる路線  
(本九島線)

自家用有償旅客運送

- ・宇和島 区域型(別当線)
- ・吉田 路線型(大河内線・大良線・筋線)  
区域型(大河内線・川平線)
- ・三間 路線型(川之内線・音地線・大藤線・増田線)

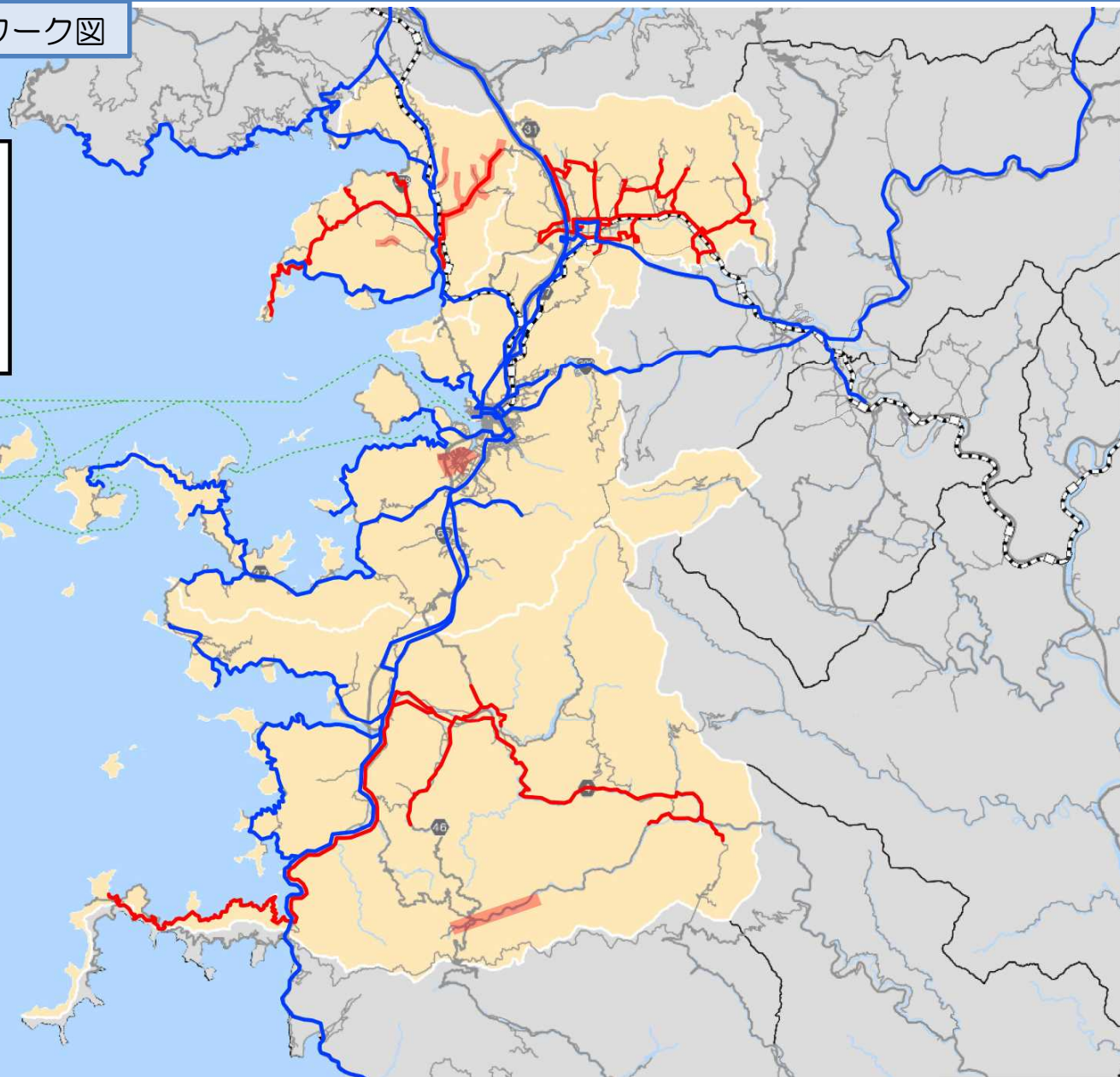
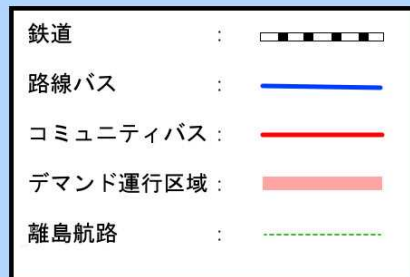
## 地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1-2参照

## 宇和島市の公共交通ネットワーク図

次ページのとおり。

宇和島市の公共交通ネットワーク図



### 協議会の構成員

宇和島市、四国旅客鉄道(株)、宇和島自動車(株)、宇和島ハイヤー(株)、愛媛県バス協会、大洲河川国道事務所、愛媛運輸支局、愛媛県南予地方局建設部、宇和島警察署、宇和島市連合自治会、宇和島市女性団体連絡協議会、宇和島市老人クラブ連合会、宇和島自動車労働組合、宇和島市観光物産協会

### 前年度の事業評価における課題

(前年度の事業の今後の改善点)

・持続可能な公共交通とするには、地域住民の自主的、積極的な利用が不可欠であるため、今後も利用促進に係る啓発(市HP・広報等を活用した情報提供)を行う。

(課題)

・新型コロナウイルス感染症の影響  
・三間地区再編路線における一般利用の定着

### 定量的な目標・効果

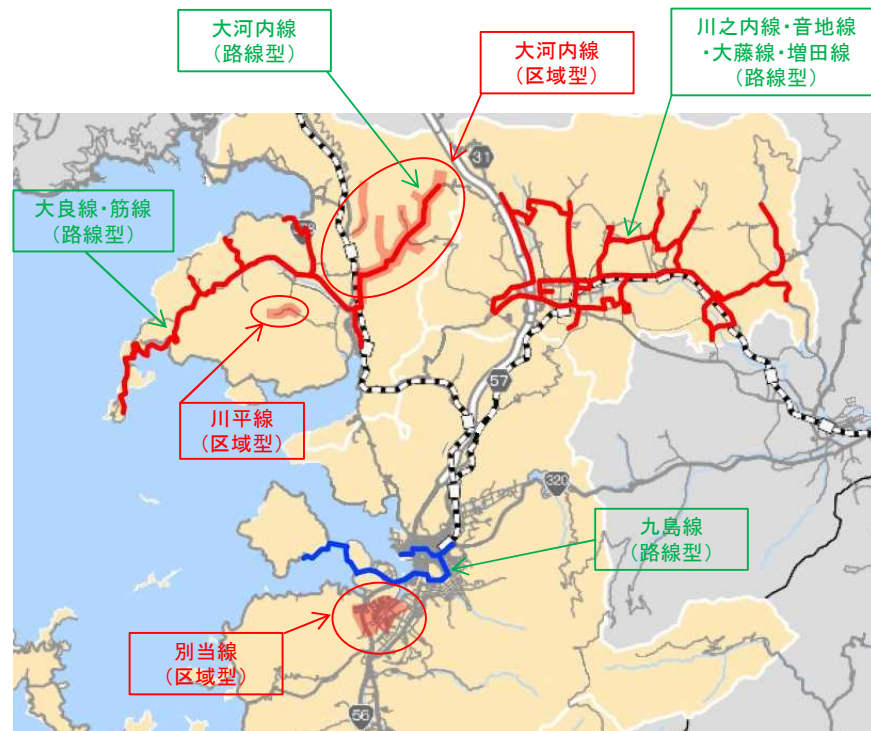
(目標)

・地域内フィーダー系統を計画どおり運行し、利用者数を維持していく。年間利用者数を、九島線は33,873人、自家用有償旅客運送は20,010人とする。

(効果)

・利用者ニーズに即した運行形態の導入と運行体制の整備により、地域に愛される交通網を構築し、高齢者の外出促進と活動機会を増加させることにより、将来にわたる地域住民の生活交通の確保・維持につなげる。

### フィーダー系統図



## 「定量的な目標・効果」達成のための具体的な取組

### (コミュニティバス・デマンド便)

- ・日報等による利用状況の把握及び委託業者との協議。・過去10年間の利用状況の把握。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、運行ごとの車内消毒、手指消毒液の車内設置、運行中の車内換気等を実施。
- ・利用促進として、利用案内に関する回覧の実施。・GTFSを整備し、令和3年8月よりGoogleマップへ掲載開始、継続。

### (本九島線)

- ・小学校の統廃合に伴う、登校時間帯の1便増便を継続し、安全性の確保及び利用環境の維持を図っている。
- ・車内アンケートを常設し、利用者の要望や意見の収集を実施。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、検温等による運転手の健康管理、車内の定期的な消毒、運行中の換気等を実施。
- ・GTFSを整備し、令和3年2月よりGoogleマップへ掲載開始、継続。
- ・利用者からの要望に基づき、時刻変更を検討(令和4年10月より時刻変更)。

## 自己評価

### 事業実施の適切性

- ・生活交通ネットワーク計画のとおり事業は適切に実施されており、地域住民の移動手段としてコミュニティバスを運行することで、交通空白地域の解消につながっている。

### 「定量的な目標・効果」の達成状況

- ・自家用有償旅客運送について、年間(令和3年10月1日～令和4年9月30日)目標利用者数20,010人に対し実績は11,340人で、目標の57%にとどまった。今期においても新型コロナウイルス感染症の影響が続いたことから、ほとんどの路線で目標値を下回った。早期の回復を図るため、引き続き感染症対策と、利用促進に係る情報発信を継続する。
- ・本九島線では目標利用人数33,873人に対して実績は30,204人、達成率は89.2%となった。原因は自家用有償旅客運送と同様で新型コロナウイルス感染症の影響によるものが大きく、今後も継続して感染症の予防対策を行い、利用の回復を図るとともに啓発活動等を継続していく。



## 今後の事業に向けた改善点

- ・持続可能な公共交通とするには、地域住民の自主的・積極的な利用が不可欠であるため、今後も利用促進に係る啓発等を推進していくとともに、より一層の環境整備を行う。
- ・大幅な再編を行った三間地区について、一部で利用者の増加が見られるものの、変化がない路線もあるため、一般利用の定着に向けて、**コロナの状況も見極めながら車内の感染症対策にも努め、引き続き回覧等による情報発信を行い、利用促進を図る。**

## その他PRポイント

- Googleマップにおいて、令和3年8月にコミュニティバスが掲載開始されたことで、宇和島市内のすべての定時運行路線(鉄道、離島航路含む)の検索が可能となった。
- 本九島線において、利用者からの要望に基づき、時刻変更を検討(令和4年10月より時刻変更)。**